

はまなす句会（十月二十六日）（第百十六回）

伸びるほど深まる秋の影法師

圭二

単〃とながらう生活杜鵑草

菊枝

山裾にこぼるる萩に歩を止どめ

由美子

立冬や四季の移ろいままならぬ

久子

山の上雲に座りて月のあり

克司

少女弾く子犬のワルツ冬薔薇

玲子

木犀のかすかなる香が道しるべ

則子

